

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3770104267		
法人名	社会福祉法人すみれ福祉会		
事業所名	グループホーム花もめん		
所在地	香川県高松市太田下町2020番地1 (電話)087-815-1800		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年7月18日	評価決定日	平成21年8月31日

【情報提供票より】(21年6月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 31日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算	11.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての3階部分
------	-------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500円	その他の経費(月額)	6,300円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	360円	昼食	500円
	夕食	520円	おやつ	0円
	または1日当たり		1,380円	

(4)利用者の概要(平成21年6月15日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	9名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	69歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	馬場病院、栗林病院、高松大塚歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体は併設の特別養護老人ホームを経営する社会福祉法人である。居間は民家風の造りにしてあり、天井も高く窓から程よく光が入っている。ユニットごとに利用者が作成した手作りの作品がディスプレイされており、あたたかい雰囲気である。カンファレンスや職員の勉強会に全員参加できるよう工夫され、理念やケアについてよく話し合われている。また、利用者の希望にそって併設施設のリハビリ機器を利用したり、季節の移り変わりがわかるよう季節の花(さくら、つつじ、紫陽花)などを見に行ったり、地域の夏祭りや小学校の運動会などに出かけている。買い物は月1回の移動売店を利用したり家族に協力を得ている。併設施設があるという利点を大いに活用している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議や家族からの意見を運営者、管理者、職員全員で話し合い改善に向け取り組んでいる。新しく取り組み始めた週2回の食事作りや併設施設の訓練室の利用が好評なので、今後さらに充実していく予定である。今後、ユニットごとに利用者にあった運営がなされ、個々の独自性が発揮されるよう期待したい。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員が良く話し合い改善に向けて取り組んでいるが、グループホームが併設施設の3階に位置していることもあり、利用者へのサービスや対応が大型施設の対応になりがちになる。そのため、地域密着型サービスとしての理念の反映について、なお一層の意識的な取り組みが求められる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2カ月に1回運営推進会議を行い、業務報告やサービス向上において意見をもらっている。出された意見をもとに、食事の盛り付けを職員と一緒にしたり、週に2回利用者とともに味噌汁作りをしているほか、利用者の希望を反映し併設施設の訓練室を利用するなどの改善を行っている。今後、運営推進会議の討議内容を深め、具体的な改善がさらになされることを期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりについて電話で家族に報告したり、ホールに写真や行事の時の様子等を掲示している。また、おりいぶ荘通信(法人全体の通信)を送付している。また、家族が面会に来た際に話し合いの場を持つたり、問い合わせなどに応じケアに反映させている。今後、グループホーム独自の通信の作成をし、状況を伝えるとともに家族会の開催など意見を聞く機会を増やすことを期待したい。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として地域の行事(老人会、祭り)などに参加したり、地域の人が併設の地域交流センターを利用する際に交流している。誰でも気軽にグループホームを訪れることが出来るように、グループホームの入口の表示や、併設施設入口にグループホームの案内を設けるなどの改善を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、10か条の理念の中から選び出し「どんな時も笑顔で！」を作成し、これを理念としている。今後、地域密着型サービスとしての理念について話し合いを続け、具体化することを期待したい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常のミーティングと月2回の勉強会や職員会で話し合いを重ね、理念を共有するとともに実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(老人会、祭り)などに参加したり、地域の人が併設の地域交流センターを利用する際に交流している。グループホームの入り口は別にもうけられているが、外から見て何処なのか判別がつきにくい。また、併設施設入口にグループホームの案内がなく、どこにあるのかわかりにくい。	○	グループホームの入り口や併設施設からの案内ボードの工夫をし、だれもが気軽に立ち寄れるような取り組みを検討することを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議や家族からの意見を運営者、管理者、職員全員で話し合い改善に向け取り組んでいる。7月から始めた週2回の食事作りや訓練室の利用が好評なので、今後さらに充実していく予定である。今後、ユニットごとに利用者にあった運営がなされ、個々の個性が発揮されるよう期待したい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を行い、業務報告やサービス向上において意見をもらっている。運営推進会議で出された意見をもとに、週に2回利用者とともに食事作りをしたり、利用者の希望を反映させるため併設施設の訓練室を利用するなどの改善を行ってきた。	○	さらに運営推進会議を活発にするために議題をグループホームからもテーマを設け、より具体的な内容にすることや会議の詳細がわかるような議事録の工夫などをし、運営推進会議での意見を生かした取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において市町村担当者と運営について話し合っているが、それ以外ではあまり行き来することがない。</p>	○	<p>グループホーム花もめん通信を近隣にある公民館や市役所の担当者に届けた際に意見を聞いたり、自治会の回覧板と同時に回してもらおうなどの工夫をし、グループホームについて広く知ってもらおうとともに、市の担当者と日常的に意見を交換できるよう期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりについて電話で家族に報告したり、ホールに写真や行事のときの様子等を掲示している。また、おりいぶ荘通信(法人全体の通信)を送付している。</p>	○	<p>グループホーム花もめん独自の通信を作成し、一人ひとりの生活の様子や近況などを伝えるとともに、通信の発送時に各家庭あての手紙をしたためるなど家族への報告についてさらに工夫することを期待したい。</p>
8	15	<p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が面会に来た際に話し合いの場を持ったり、問い合わせなどに応じケアに反映させている。面会の少ない人などには廊下に意見箱を設置しているが意見が入ることはほとんどない。</p>	○	<p>家族会などを設け、家族との話し合いの場をさらに増やし、家族の意見を生かした運営をすることを期待したい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職はなるべく抑えるようにしている。また、異動がある場合は併設施設の特別養護老人ホームから異動しており、日ごろからグループホームと行き来したり、苑内の散歩の際に交流をもつなど、馴染めるよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホームの研修や勉強会、外部の研修に参加している。また、各研修会への職員の参加状況を把握し、全職員が均等に研修を受けられるよう配慮している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は交流する機会を持っていない。</p>	○	<p>同業者とのネットワーク作りに取り組むと共に、職員研修に外部講師として同業者を招くなどの工夫をし、互いに学びあいサービスの向上に取り組むことを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学を行い、雰囲気に馴染めるよう工夫している。併設の特別養護老人ホームからの利用者は見学や体験入居をしており、渡り廊下でつながっているため職員の行き来もあり、比較的早くなじみの関係を形成できる。入居時には他の人への紹介や馴染むまでの間、頻回に声かけするようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物を洗ったりたたむなどの手伝いを一緒にしたり、味噌汁づくりを一緒にするなど、利用者と共に過ごしながらか学びあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間の希望や嗜好調査など入居者の思いや希望の把握に努めている。訴えのできない利用者にはその人のこれまでの生活を家族に聞くようにしている。	○	一人ひとりの思いや希望の把握を今後も続けるとともに、訴えのできない利用者からの思いを引き出す方法を工夫すると共に、入居前の生活の様子などを家族から聞き、本人の思いが叶えられるよう工夫することを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回、職員全員(夜勤1名除く)が集まり介護計画についての話し合いをしている。受け持ちを決め、担当者は事前に本人と家族の意見を聞き取りしている。その際、本人がより良く暮らすための課題や改善点を出しあい討論をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3カ月に1回、介護計画の見直しを行っている。変化に応じて本人や家族と話し合い、適宜介護計画を変更するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設のリハビリ室の利用や地域交流センターの交流事業に参加するなど、併設施設の機能も活用している。また、様態の変化に合わせて、グループホームまたは併設施設を利用するなどしている。今後、さらに地域へ施設機能を開放し活用することを期待したい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞きこれまで通っていたかかりつけ医を受診できるようにしている。協力医療機関への受診のほか、その他医療が必要な場合、適宜対処している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を聞きながら、医療機関と話し合い方針を決定している。これまでに終末期を迎えた1例の場合、看取りも含め全職員で話し合いをもち、対処したので大きな混乱はなかった。今後、残された入居者の心のケアや職員の終末期のケアのあり方について、さらに充実することを期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に職員に周知するとともに、記録物の保管庫に鍵をつけている。また、排泄時など支援が必要な人の場合でも、排泄時には戸を半分以上しめプライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたケアができるように希望を聞くだけでなく、入浴やリハビリなど利用者自らが希望を言えるよう工夫をし、その声に最大限こたえている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設施設の厨房でつくり、盛り付けの準備、食事、片づけを職員と一緒にしている。週に2回ご飯、味噌汁つくりをしており、今後回数を増やす計画である。月1回のおやつづくりは本を広げて何を作るか決めるなど楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を聞き、マンツーマンでゆっくりと入浴できるようにしている。希望を聞いて昼から夕食前までの間に入浴している。また、暑い季節には入浴以外に寝る前に清拭をするなど工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	エプロンやお絞りたたみ、洗濯、食器洗いなど、一人ひとりにあった役割分担をしている。また、日曜の昼から皆で掃除をしており、利用者の状況に合わせてできるところを掃除している。また、畑づくりもしており、サツマイモづくりなど楽しみがもてるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花(さくら、つつじ、紫陽花)などを見に行ったり、地域の夏祭りや小学校の運動会などに出かけている。買い物は月1回の移動売店を利用したり家族に協力を得ているが、一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かける支援までには至っていない。	○	季節ごとの外出や移動売店の利用に加え、地域のスーパーに買い物に行くなど、各人のこれまで家庭で過ごしていた日常生活に出来るだけ近づくような外出支援や気晴らしに散歩に行く支援など外出の機会を増やすよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は建物の1階にあり、鍵をかけていない。併設施設との入り口は分けている。外から一見するとグループホーム入口が分からないので、誰でも気軽に訪れることができるような玄関になるよう工夫を期待したい。3Fのグループホームの入口・居室ともに鍵はなく職員の見守りで対応できている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者全員、職員とで避難訓練を年に2回実施している。避難する際は併設施設への移動、グループホームのベランダ、階段を使用して3階から1階へと誘導するようマニュアル化されている。地域への協力要請も出来ており、いつでも駆けつけてくれるようになっている。ホームが3階にあるため、今後、利用者の状況も考慮したシュミレーションを行い訓練をすることを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は前もって嗜好調査を行い、栄養士が献立を立てている。また、選択メニュー(魚か肉か)の日も設け、利用者の好みを反映できるよう配慮している。また、口腔の状態が悪くなるなど変化が見られたらすぐに食事形態を変更するなど工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は民家風の造りにしており、天井も高く窓から程よく光が入るようになっている。ユニットごとに利用者が作成した手作りの作品がディスプレイされており、あたたかい雰囲気である。利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けで、使いなれた生活用品を持ち込んでいる。しかし、そのほとんどがチェストの中に整理されているため、一人ひとりの部屋の違いが少なく見える。今後、本人や家族との協力を得て、さらに家庭に近い雰囲気作りに期待したい。		